



「ふつう」ってなんでしょう。「ふつう」から外れることを必要以上に恐れたり、「ふつう」では飽き足らず周囲と違う道に憧れたり、のどかに「ふつう」の人生を歩みたいと思ったり……。

夏休みに中学年の課題図書『ふみきりペンギン』（おくはらゆめ作・絵）を手にとってみました。小学生の、ちょっと不思議な日常を描いたこの本から「ふつう」について考えさせられました。

始業式では、この本を読んだ私の読書感想文を子どもたちに聞いてもらいました。

あなたは あなた —2学期始業式—

「“ふつう”ってなんだろう」

本山小学校 中田 祐二

ゆうとは左利きです。ゆうとは、自分が友達とちがうことを、少し気にしています。

ある日、ゆうとがふみきりのこちら側でいると、向こう側でペンギンたちがおしゃべりをしています。あるペンギンが言いました。

「なあ、ゆうにとって、左手でえんぴつ持っているの、ヘンじゃない？」

別のペンギンが答えました。

「そうだね、ふつう右手で持つかも」

「ぼくも、右手で鉛筆を持つよ」

でも、また別のペンギンは言いました。

「でも左利きってさ、みんなとちがってて、なんかかっこよくない？」

最後に、ゆうとの飼い犬のマルが言いました。

「え〜とお、ぼくはあ、え〜とお、え〜とねえ、ゆうとが左利きでも、右利きでも、どちらでもいい〜」

私は、みんなと同じ「ふつう」がいいのか。みんなとちがうのがかっこいいのか、それともそんなことどうでもいいのか、考えました。

私は小学生の頃、ピアノを習っていました。クラスの男の子の中で、ピアノを習っているのは私一人でした。学校から帰って、友達と遊んでいて、「今日はピアノがあるから」と途中で抜けると、「ふつう、男はピアノなんか弾かんよな」とか「男やのに、ピアノ習いよんや。女の子みたいや。」と茶化されました。

その時はつらかったのですが、でも、今は、ピアノがあってよかったなと思っています。

この夏休み中も、新しい曲を練習しました。「Summer」という曲です。みなさんが、この夏、かき氷を食べたこと、お出かけしたこと、真っ青な空と陣取り合戦をする入道雲……。大切な今年の夏を思い浮かべながら聴いてください。

さて、男の人なのにピアノを弾くのは「ヘン」なのでしょうか。それとも「かっこいい」のでしょうか。ヘンだと言われると、やっぱりつらいです。かっこいいと言われるとうれしいです。でも、飼い犬のマルが「ゆうとは右利きでも左利きでもどちらでもいい」と言ってくれたように、「ピアノが弾けても弾けなくても、あなたはあなただよ」と言ってくれるのが一番うれしいです。

“ダラダラしたくなる今日も大切にしていこう”

始業式の朝、6年教室の黒板には、この言葉が書かれていました。

毎日、生きていれば、幸せな日もあれば浮かない日もある。「やるぞ」と奮起する日もあればダラダラしたくなる日もある。でも、どれも大切な1日ですよ、と黒板の文字が語っているようでした。

右利きの人もいれば、左利きの人もいます。ピアノが弾ける人もいれば苦手な人もいます。どれも大切な1日ですよ、と言っているようにも見えました。